

IV

The Emergence of an Oracle

THE EMERGENCE OF AN ORACLE
IS THE FIRST STEP
TOWARD THE
REVELATION OF THE
FUTURE. IT IS THE
MOMENT WHEN THE
ORACLE FIRST
SPEAKS TO THE
WORLD.

IV

The Emergence of an Oracle
Experimental Phase I

私は逃げていた。
大陸各所に点在するという、ある教団の狂信者達から。

「あたし、何もしてない……！」
呼吸が辛く、足は細かい傷でいっぱい。
でも、走らないと。

自分がなぜ狙われているのかわからない。
大陸から遠く離れたこんな小さな島の、小さな村にどうして……。

深い夜の森を駆ける。
幸い夜目は利くし、この辺りの森で迷うことはない。
だけど、追ってくる人数が多すぎる。

(もう、走れない……)
諦めかけたその時、目の前に朧気な光が見えた。
闇の中で輝くそれは、とても神秘的で――

「きれい……」
追手がすぐそこまで来ているにも関わらず、見惚れてしまった。

そして光は段々と輝きが強くなり、辺りを包み込んだ。
あまりの強さに思わず目を覆ってしまう。

そして光は弾け、キラキラと破片のようなものが浮かんで煌いた。
その中心に、何者かが立っている。

「誰……？」
見たことのない服を身に纏っている。
顔がすっぽりとフードに覆われていて、表情を何うことが出来ない。
背丈はあまり高くなく、体格だけでは少年なのか少女なのか、判別できなかった。
月夜に浮かんだその異質な服装は、どこか神秘的だ。

逃げることも忘れ、ボーッと見つめていたら、彼（彼女？）が手招きをした。

(こっちへ来い、ってこと……？)
明らかに怪しいけど、もうそこまで狂信者達は追っている。
一か八か、この人に頼ってみることにした。

私達は、更に森の深くへと逃げていく。

大きな遺跡がある方向だ。

確かに、あそこなら身を隠すことは出来るだろう。

しかし、今にも崩れそうだから、近づいてはいけないと村では言われていた。

フードを被った人は、やはり遺跡へと向かっているようだ。

「ねえ！あそこ…あの遺跡で隠れるの！？」

私はたまらず聞いてしまった。

「……」

しかし、彼（？）は喋らない。

何を考えているんだろう…。

「あそこは危ないから行っちゃいけないって、皆が…！」

私が警告するも完全に無視され、とうとう遺跡までたどり着いてしまった。

一体これが何年前のものなのか、私は知らない。

とても奇妙な見た目をしているから、私も含めて、村の皆はあまり好きではなかった。

しかもう、四の五の言っていられない。

私達は真っ暗な遺跡の中へと潜り込んでいったー

私達の足音がコツンコツンと響く。

10歩も進まぬうちに視界は暗闇に包まれ、どう歩けばよいのかわからなくなった。

と、その時。

彼の手から光が生まれた。

見た事のないものだ。筒状で、辺りを照らしている。

「そ、それ何？？どうやって光ってるの？」

好奇心に負けて、私は聞いてしまった。

「…」

やはり、答えてくれない。

しかし、狭そうな場所を指差していた。

あっちに行こう、という意味なのか。

追手はまだ遺跡へと辿り着いていないようだ。

私はその指示に従うことにした。

そこは元々何に使われていた場所なのかわからないけど、

扉のようなものがあり、彼は鍵をかけた。

何故遺跡にある部屋（？）の鍵を持っているのか…。彼に対する怪訝な気持ちが増していく。

しかしお陰で、しばらくはここでやり過ごすことが出来そうだった。

空気がひんやりとしている。
この壁は石で出来ていないらしい。
昔聞いた話だけど、これは確かコンクリートと言われるものだそうだ。
随分昔に建てられたと、お母さんは言っていた。
とても高度な技術を以て作られたように見えるけれど…。
もうこういった建物は作れないらしい。
その理由はお母さんも知らなかった。

「あなたは…この遺跡について何か知っているの？」

「……」

無視した、というわけではなく、何か別のことに集中しているようだった。
もしかして—

ザッ ザッ と、扉の外で誰かが歩いている音が聞こえる。
狂信者達だ…。
ここまで追いついてしまったらしい。
こんなに直ぐに追いつかれるなんて…。

辺りが暗いからまだ大丈夫だけど…このままだと、この扉が見つかるのも時間の問題だ。

恐怖と焦りが私の中を支配していく。
そんな私に、フードを被った彼は何かを見せてきた。

右手には— 筒状で、先端に輪っかがついた **黒い何か**が。
左手には— 私の村でよく使われている、**小ぶりの剣**が。

選べ、と言いたいようだ。
まさか、これで戦えというの？
私は一体どうしたら…。



<https://complegc.com/iv/extra/>

最後のスラッシュまで正確に記入してください
Please enter the entire URL, including the last slash (/).

Password: EC2tA2nR

保証期間：2022年3月1日迄有効

Valid until March 1, 2022

上記のDLCページの回答フォームにて

右手か、左手かを選んでください。

あなたの選択がこの話の未来を決定づけるかもしれません。

(回答期限 2020年7月31日迄)

Access the DLC page above
then choose "Right Hand" or "Left Hand".
Your choice may determine the future of this story.
(Response deadline: July 31, 2020)

The story's English translation will be available on the DLC page.

ᠲᠦᠷᠢᠨᠭᠡᠨᠢᠨᠠᠨ

I.
Main Theme

II.
Sil

III.
The Emergence of an Oracle

All Composition & Arrangement by Taishi

Design by LiGHTEN

English Translation by N-Forza

Produced by LiGHTEN, Taishi

